



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月9日

上場会社名 第一工業製薬株式会社
 コード番号 4461 URL <http://www.dks-web.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大柳 雅利
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務本部長 (氏名) 浦山 勇
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月9日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 075-323-5955

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	43,390	13.4	1,670	△22.0	1,376	△28.3	0	△100.0
23年3月期第3四半期	38,246	16.3	2,142	93.3	1,921	137.0	981	178.4

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 808百万円 (46.8%) 23年3月期第3四半期 550百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	0.00	—
23年3月期第3四半期	25.15	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第3四半期	52,329	16,987	31.0	379.58
23年3月期	47,741	16,498	32.9	367.85

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 16,197百万円 23年3月期 15,697百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,000	9.3	2,000	△26.8	1,600	△34.4	100	△91.3	2.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 四日市合成株式会社、除外 1社 (社名)

(注)詳細は、P. 4「サマリー情報(その他)に関する事項」をご確認ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	43,421,609 株	23年3月期	43,421,609 株
24年3月期3Q	748,646 株	23年3月期	747,652 株
24年3月期3Q	42,673,427 株	23年3月期3Q	39,035,151 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー報告書を受領しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、供給網の復旧にともない、減少していた生産は緩やかに持ち直しています。しかし、電力不足の長期化懸念、円高、タイの洪水の影響、また、欧州債務問題や中国の経済成長率鈍化による世界経済の減速懸念といったリスクもつきまっております。

化学業界におきましても、生産活動の復旧は着実な回復を続けていますが、輸出の鈍化や電力不足、原油・ナフサなどの資源価格の動向といった懸念材料を抱えております。

このような経済環境の中にあきまして、当社グループはコア製品事業の拡販に努めるとともに、情報技術や環境保護に関連する成長分野において新規市場の開拓や新素材の開発に注力し、また一方、引き続き販売価格の是正や原価低減を含む総経費の削減などに取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績といたしましては、売上高は、東日本大震災やタイの洪水などの自然災害の影響や、深刻化した欧州債務問題などにより需要が急激に減退していますが、地球環境保護の動きに対応した電子部品材料用途の導電性ペーストなどの『電子デバイス材料』は顕著に伸長しました。また、本年第1四半期において、従来、持分法適用関連会社であった四日市合成㈱の株式を追加取得し、新たに連結の範囲に含めましたことにより、『界面活性剤』の売上高も顕著に伸長しました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は433億90百万円（前年同四半期比13.4%増）となりました。

損益面につきましては、四日市合成㈱を新たに連結の範囲に含めましたが、急激な需要の減退に加え長期化する歴史的な円高や依然として資源価格が高水準で推移し利益を圧迫しました結果、営業利益は16億70百万円（前年同四半期比22.0%減）となりました。また、円高の影響による為替差損の発生などもあり経常利益は13億76百万円（前年同四半期比28.3%減）となりました。これに四日市合成㈱の株式を追加取得したことによる「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）の適用に伴い、特別利益として負ののれん発生益、特別損失として段階取得に係る差損を計上しました。更に株価の大幅な下落に伴う投資有価証券評価損を加え、税金費用を差し引きしました結果、当第3四半期連結累計期間の四半期純利益は0百万円（前年同四半期比100.0%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

<界面活性剤>

界面活性剤の売上高は、総じて顕著に伸長しました。

国内では、東日本大震災などに起因する需要の回復が遅れ、トイレタリー用途の活性剤は低調に推移しましたが、ゴム・プラスチック用途の活性剤は新規開発が実り大幅に伸長しました。また、四日市合成㈱を新たに連結の範囲に含めたことから石鹸洗剤用途の活性剤が顕著に伸長しました。

海外では、繊維用途の活性剤が低調に推移し、色材用途及びゴム・プラスチック用途の活性剤はやや低調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は142億96百万円（前年同四半期比25.5%増）となりました。

営業利益は、四日市合成㈱を新たに連結の範囲に含めましたが、復興需要の遅れや資源価格が高水準で推移し利益を圧迫しましたことから5億9百万円（前年同四半期比21.7%減）となりました。

<アメニティ材料>

アメニティ材料の売上高は、総じて好調に推移しました。

国内では、セルロース系高分子材料は得意先が東日本大震災で被災しやや低迷しましたが、トイレタリー用途は順調に推移しました。シヨ糖脂肪酸エステルは食品用途がやや低調に推移し、化粧品用途はやや低迷しました。ビニル系高分子材料は一般工業用途や化粧品用途が堅調に推移しました。

海外では、セルロース系高分子材料は医薬品用途が堅調に推移しましたが、食品用途や繊維用途は低調に推移しました。シヨ糖脂肪酸エステルは食品用途を中心に好調に推移しました。ビニル系高分子材料は一般工業用途がやや低調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は54億50百万円（前年同四半期比1.1%増）となりました。

営業利益は、効率的な生産や営業経費の削減に努めましたが、資源価格が高水準で推移し利益を圧迫しましたことから2億12百万円（前年同四半期比14.7%減）となりました。

<ウレタン材料>

ウレタン材料の売上高は、総じて堅調に推移しました。

東日本大震災の影響による原材料の供給機能低下から生産活動に支障をきたしたことや、その後の復興需要に勢いがみられず、建築用材料は大きく落ち込みました。重防食塗料用途は低調に推移し、クッション用途もやや低迷しました。岩盤固結剤は公共工事が減少しましたものの、新規開発が実り大幅に伸長しました。

その結果、当事業の売上高は64億94百万円（前年同四半期比0.3%増）となりました。

営業利益は、低操業による固定費負担の増加や資源価格が高水準で推移し利益を圧迫しましたことから2億52百万円（前年同四半期比45.9%減）となりました。

<機能材料>

機能材料の売上高は、総じて大きく落ち込みました。

国内では、難燃剤はデジタル家電用途が顕著に落ち込みました。光硬化樹脂用材料は、電子材料用途が在庫調整等により大きく落ち込みました。水系ウレタン樹脂はフィルム用途や鋼板向け用途が順調に推移しました。プリント配線基板加工用樹脂はやや低調に推移しました。

海外では、需要の低迷により難燃剤は低調に、光硬化樹脂用材料、水系ウレタン樹脂はやや低調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は77億96百万円（前年同四半期比10.2%減）となりました。

営業利益は、販売価格の値上げや原価低減に努めましたが、売上高の減少に伴う売上利益の減少が響き4億88百万円（前年同四半期比8.6%減）となりました。

<電子デバイス材料>

電子デバイス材料の売上高は、総じて顕著に伸長しました。

地球環境保護の動きに対応した電子材料用途の導電性ペーストは顕著に伸長しました。射出成型用ペレットは好調に推移し、デバイス材料も新規開発により好調に推移しました。機能性無機材料はやや低迷しました。

その結果、当事業の売上高は93億51百万円（前年同四半期比48.3%増）となりました。

営業利益は、売上高の顕著な伸長はありましたが、資源価格が高水準で推移したことに加え、営業経費の増加が利益を圧迫し2億6百万円（前年同四半期比13.8%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて45億87百万円増加し、523億29百万円となりました。その主な要因は、投資有価証券は14億46百万円減少しましたが、従来、持分法適用関連会社であった四日市合成㈱の株式を平成23年4月1日に追加取得し、新たに連結の範囲に含めましたことなどにより、受取手形及び売掛金が20億71百万円、商品及び製品などのたな卸資産の合計が18億12百万円、建物及び構築物などの有形固定資産の合計が22億73百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べて40億98百万円増加し、353億41百万円となりました。その主な要因は、未払法人税等が6億51百万円減少しましたが、四日市合成㈱を持分法適用関連会社から新たに連結の範囲に含めましたことや新規借入を行いましたことなどにより、支払手形及び買掛金が7億16百万円、短期借入金が7億73百万円、長期借入金が16億8百万円、退職給付引当金が6億44百万円増加したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べて4億89百万円増加し、169億87百万円となりました。その主な要因は、配当金の支払などにより利益剰余金は2億98百万円減少しましたが、その他有価証券評価差額金が8億61百万円増加したことなどによるものです。

また、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べて1.9ポイント悪化し31.0%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年1月27日付で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、従来、持分法適用関連会社であった四日市合成㈱の株式を追加取得し、新たに連結の範囲に含めております。

また、最近事業年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）における四日市合成㈱の当社に対する売上高の総額が、当社の仕入高の総額の100分の10以上であるため、四日市合成㈱は当社の特定子会社に該当します。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,110,172	4,481,568
受取手形及び売掛金	11,948,214	14,020,109
商品及び製品	5,547,811	6,776,651
仕掛品	22,293	41,752
原材料及び貯蔵品	1,474,732	2,039,247
その他	1,502,828	1,787,850
貸倒引当金	△2,452	△12,055
流動資産合計	25,603,600	29,135,122
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,318,425	8,000,066
機械装置及び運搬具（純額）	2,941,456	3,655,157
工具、器具及び備品（純額）	473,657	495,434
土地	4,402,995	5,018,049
リース資産（純額）	1,877,987	1,889,494
建設仮勘定	119,460	349,087
有形固定資産合計	17,133,982	19,407,288
無形固定資産		
その他	244,141	382,469
無形固定資産合計	244,141	382,469
投資その他の資産		
投資有価証券	3,868,365	2,421,795
その他	914,769	992,811
貸倒引当金	△23,000	△10,200
投資その他の資産合計	4,760,134	3,404,407
固定資産合計	22,138,258	23,194,164
資産合計	47,741,859	52,329,287

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,846,156	11,562,761
短期借入金	9,053,728	9,827,281
未払法人税等	739,033	87,035
引当金	465,760	273,257
その他	1,996,153	3,047,799
流動負債合計	23,100,832	24,798,135
固定負債		
長期借入金	5,045,000	6,653,200
退職給付引当金	845,457	1,489,703
その他の引当金	6,090	6,090
資産除去債務	70,021	70,378
その他	2,176,047	2,324,017
固定負債合計	8,142,616	10,543,389
負債合計	31,243,448	35,341,524
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,141,707	7,141,707
資本剰余金	5,470,211	5,470,211
利益剰余金	4,612,288	4,313,778
自己株式	△196,945	△197,193
株主資本合計	17,027,261	16,728,504
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,076,335	△214,350
繰延ヘッジ損益	△39	8
為替換算調整勘定	△253,391	△316,324
その他の包括利益累計額合計	△1,329,767	△530,666
新株予約権	5,602	11,905
少数株主持分	795,313	778,019
純資産合計	16,498,411	16,987,762
負債純資産合計	47,741,859	52,329,287

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	38,246,918	43,390,740
売上原価	30,147,343	35,095,075
売上総利益	8,099,575	8,295,665
販売費及び一般管理費	5,957,484	6,624,992
営業利益	2,142,090	1,670,672
営業外収益		
受取利息	1,594	1,744
受取配当金	26,605	22,743
持分法による投資利益	182,697	51,541
その他	54,847	89,341
営業外収益合計	265,744	165,371
営業外費用		
支払利息	224,195	224,579
その他	262,406	234,495
営業外費用合計	486,601	459,075
経常利益	1,921,233	1,376,968
特別利益		
負ののれん発生益	—	42,903
固定資産売却益	—	38,142
持分変動利益	25,783	—
特別利益合計	25,783	81,046
特別損失		
投資有価証券評価損	66,391	1,142,396
段階取得に係る差損	—	94,704
固定資産処分損	45,355	36,772
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	77,135	—
減損損失	32,057	—
関係会社出資金売却損	2,245	—
特別損失合計	223,186	1,273,874
税金等調整前四半期純利益	1,723,830	184,140
法人税、住民税及び事業税	558,818	170,112
法人税等調整額	87,756	△35,840
法人税等合計	646,575	134,271
少数株主損益調整前四半期純利益	1,077,255	49,869
少数株主利益	95,624	49,661
四半期純利益	981,631	208

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,077,255	49,869
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△393,692	863,976
繰延ヘッジ損益	△633	48
為替換算調整勘定	△115,049	△94,395
持分法適用会社に対する持分相当額	△17,039	△10,606
その他の包括利益合計	△526,414	759,021
四半期包括利益	550,840	808,891
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	490,417	799,308
少数株主に係る四半期包括利益	60,422	9,582

(3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	合計
売上高						
外部顧客への売上高	11,393,601	5,392,551	6,475,102	8,678,816	6,306,846	38,246,918
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	11,393,601	5,392,551	6,475,102	8,678,816	6,306,846	38,246,918
セグメント利益（営業利益）	651,243	249,211	467,123	534,707	239,805	2,142,090

(注) 報告セグメント利益の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アメニティ材料」セグメントにおいて、グアーガム製品については、海外市場の激化や円高の進行などにより、採算悪化が顕著となったため、グアーガム製品の販売権を譲渡し同事業から撤退することを決定いたしました。これに伴い、同製品の専用製造設備を独立した資産グループとして取扱い、将来キャッシュ・フローを見積もったところ、現時点ではキャッシュ・イン・フローの生成が見込めず売却の可能性も極めて低いことから、帳簿価額の全額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては32,057千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	界面活性剤	アメニティ 材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス 材料	合計
売上高						
外部顧客への売上高	14,296,700	5,450,896	6,494,269	7,796,972	9,351,902	43,390,740
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	14,296,700	5,450,896	6,494,269	7,796,972	9,351,902	43,390,740
セグメント利益（営業利益）	509,739	212,698	252,822	488,596	206,816	1,670,672

(注) 報告セグメント利益の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度末に比べて、当第3四半期連結会計期間の「界面活性剤」及び「ウレタン材料」の資産の金額が著しく変動しております。

その概要は、以下のとおりであります。

第1四半期連結会計期間より、四日市合成㈱を新たに連結の範囲に含めましたことに伴い、「界面活性剤」の資産は4,749,846千円、「ウレタン材料」の資産は576,947千円、それぞれ増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「界面活性剤」及び「ウレタン材料」において、四日市合成㈱の株式を追加取得し、新たに連結の範囲に含めるにあたり「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）を適用した結果、当社の投資に対応する時価純資産額が取得原価を上回ったため、負ののれん発生益を計上しております。

なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、42,903千円であります。この負ののれん発生益は特定の報告セグメントに係るものではないため、全社の利益として認識しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。